

平成29年度 第7回キッズ・モニターアンケート 「手話」と「いまの幸せと愛情（あいじょう）」について 実施報告

アンケートの実施結果は、以下のとおりでした。
キッズ・モニターのみなさん、ご協力ありがとうございました。

概要

1. 実施期間 平成30年1月18日～2月6日
2. 回答者数 222名
3. 回答率 41%
4. 実施方法 インターネットによるモニター調査

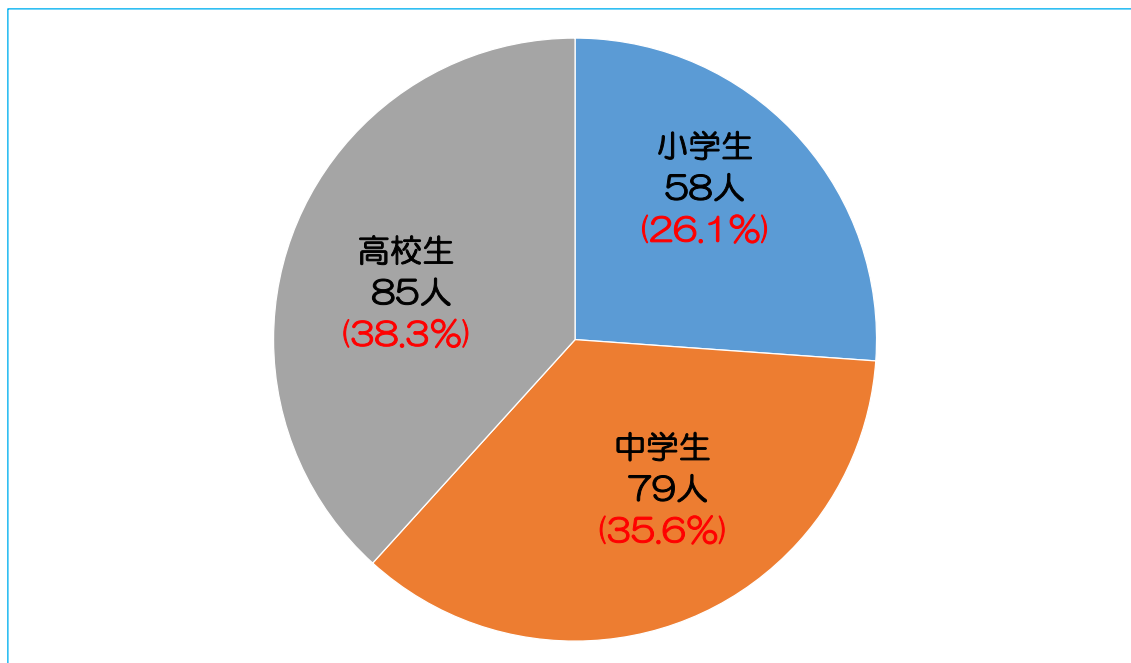
アンケート結果概要

Q1 あなたの年代について

あなたの年代はどれですか。【単一回答】

- ①小学生 ②中学生 ③高校生

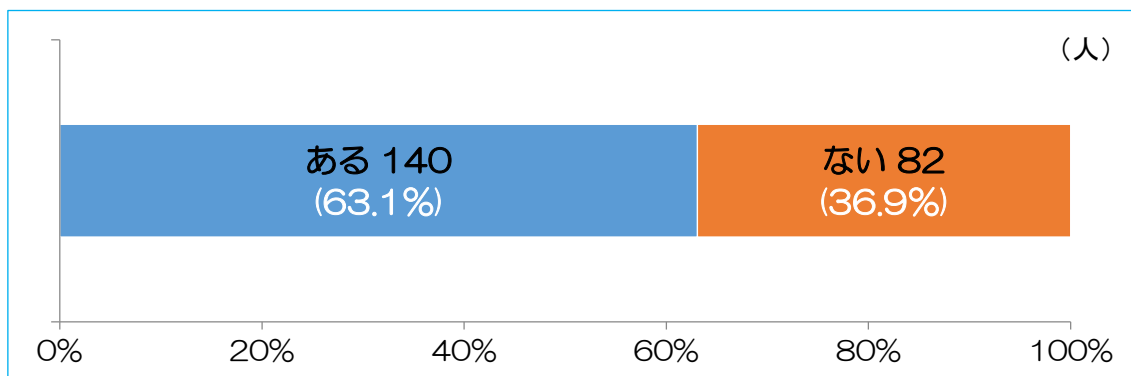
今回答えていただいた方の年代は、下の表のようになりました。



Q2 手話にふれる・学ぶことについて

あなたは、これまでに、手話を使う人に会ったり、手話を学んだりしたことがありますか。【単一回答】

- ①ある ②ない



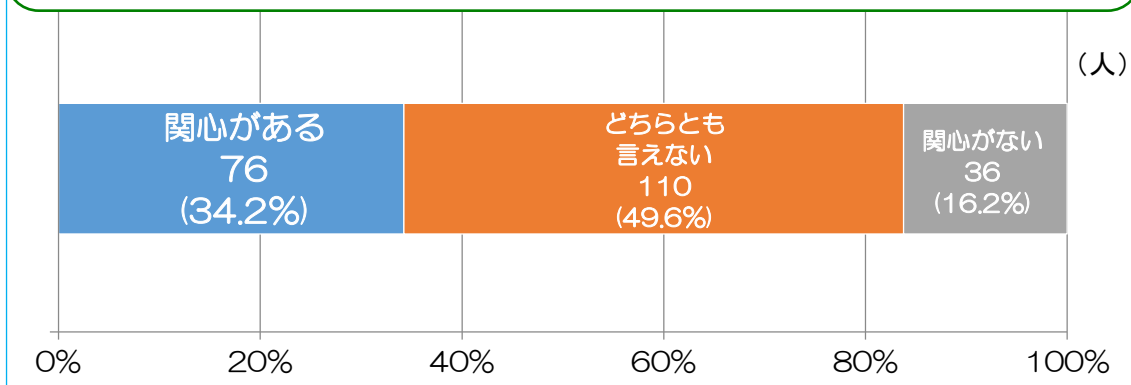
	小学生	中学生	高校生
ある	67%	63%	60%
ない	33%	37%	40%

10人のうち6人が、手話を使う人に会ったり、手話を学んだりしたことがあることがわかりました。また、年代が低くなるほど、手話にふれる・学ぶことについて「ある」ことが多く寄せられました。

Q3 手話への関心について

あなたは、手話に関心がありますか。【単一回答】

- ①関心がある ②どちらとも言えない ③関心がない



	小学生	中学生	高校生
関心がある	40%	32%	33%
どちらとも言えない	46%	53%	48%
関心がない	14%	15%	19%

年代に関係なく、手話への関心について、「どちらとも言えない」が多く寄せられました。

※Q2とQ3で、クロス集計をしました。

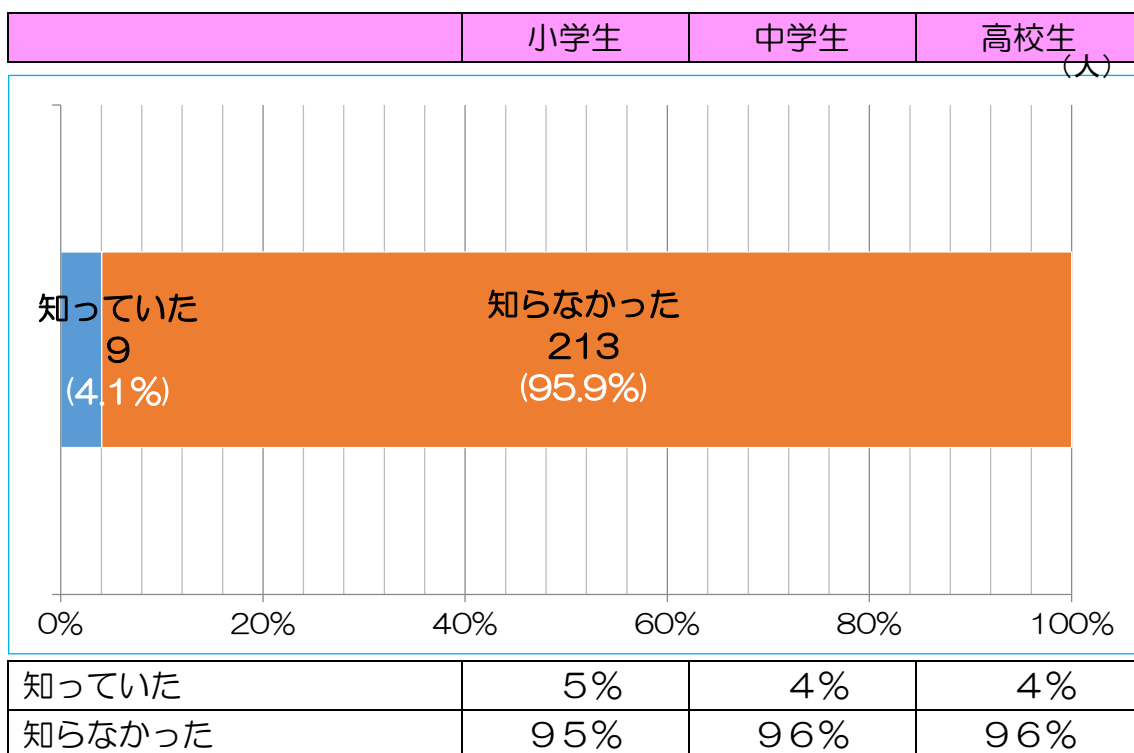
	Q2 手話の使用について		
Q3 手話への関心について	ある	ない	総計
関心がある	60人	16人	76人
どちらとも言えない	62人	48人	110人
関心がない	18人	18人	36人
総計	140人	82人	222人

手話を使ったことが「ある」人も「ない」人も、手話への関心について「どちらとも言えない」が多いことがわかります。

Q4 三重県手話言語条例について

あなたは、昨年4月1日に「三重県手話言語条例」ができたことを知っていましたか。【単一回答】

- ①知っていた ②知らなかった



三重県手話言語条例について、「知っていた」が、前回（平成29年1月実施）より2.3%伸びましたが、依然としては「知らなかった」が多く寄せられました。

「三重県手話言語条例」は、平成29年4月からスタートしました。

この条例では、手話は、耳の聞こえない人がコミュニケーションをとるための大切な「言葉」であることや、県は、手話を使いやすい環境づくりを進めること、また、県民のみなさんの役割として、手話への理解を深めていただくこと、などを定めています。

条例に基づく取組を進めることにより、聞こえない人と聞こえる人が、おたがいを尊重し、手話が広く利用される社会になることをめざしています。

「できるカモン」

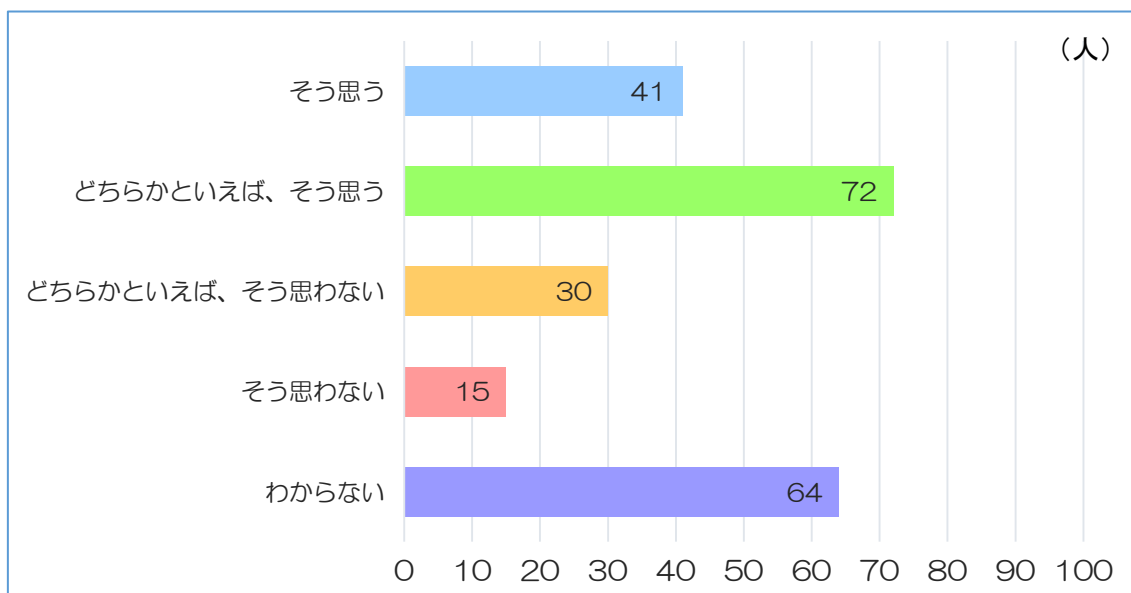
一般社団法人三重県聴覚障害者協会
 マスコットキャラクター
 （手話をしている様子を表しています）



Q5 ろう者について(1)

あなたは、ろう者と話したいと思いますか。【単一回答】

※手話・紙などを書いてやり取りをする・身ぶりなどの会話方法は問いません。



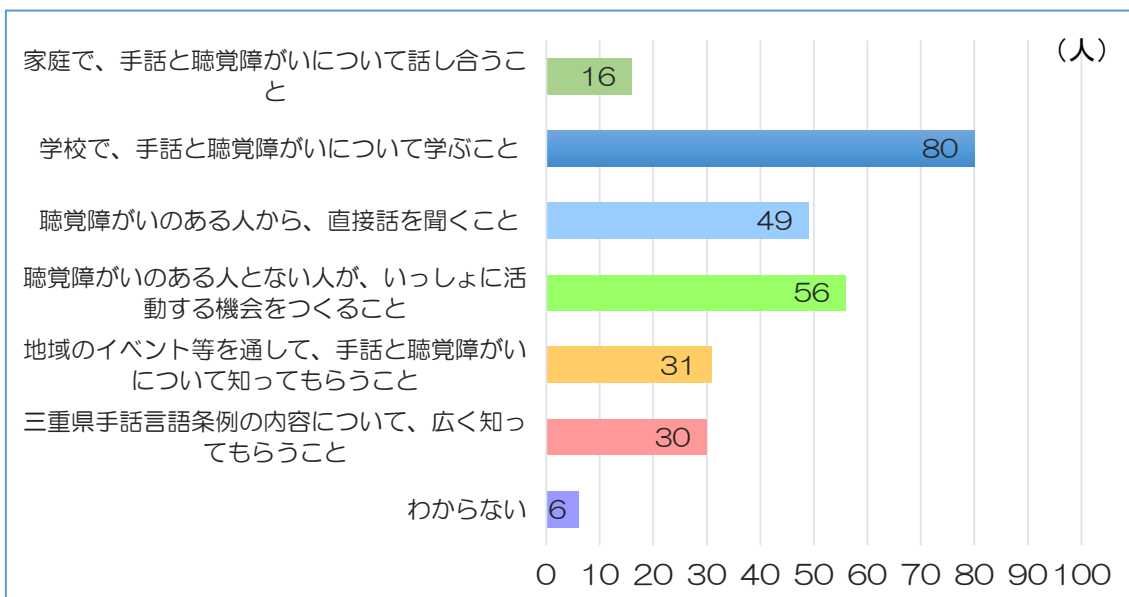
	小学生	中学生	高校生
そう思う	26%	17%	15%
どちらかといえば、そう思う	26%	30%	39%
どちらかといえば、そう思わない	12%	14%	14%
そう思わない	5%	5%	10%
わからない	31%	34%	22%

全体的に「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」とする回答がほぼ半分を占めているものの、「わからない」とする回答も多く寄せられました。

Q6 ろう者について(2)

Q5で「どちらかといえば、そう思う」、「どちらかといえば、そう思わない」、「そう思わない」と回答した人にお聞きします。

あなたは、「手話」がたくさんの人に使われる三重県になるためには、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまるものをすべてえらんでください。【複数回答】



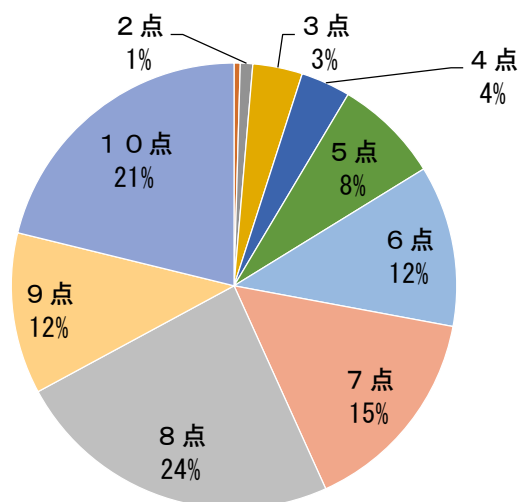
	小学生	中学生	高校生
家庭で、手話と聴覚障がいについて話し合うこと	4%	8%	5%
学校で、手話と聴覚障がいについて学ぶこと	34%	28%	29%
聴覚障がいのある人から、直接話を聞くこと	21%	19%	16%
聴覚障がいのある人とない人が、いっしょに活動する機会をつくること	23%	17%	24%
地域のイベント等を通して、手話と聴覚障がいについて知ってもらうこと	8%	13%	12%
三重県手話言語条例の内容について、広く知ってもらうこと	4%	12%	14%
わからない	6%	3%	0%

「手話」がたくさんの人に使われる三重県になるためには、「学校で、手話と聴覚障がいについて学ぶこと」「聴覚障がいのある人から、直接話を聞くこと」「聴覚障がいのある人とない人が、いっしょに活動する機会をつくること」が必要であることがわかりました。また、中学生と高校生は、「三重県手話言語条

例の内容について、広く知ってもらうこと」も必要であることがうかがえます。

Q7 今の幸せの点数について

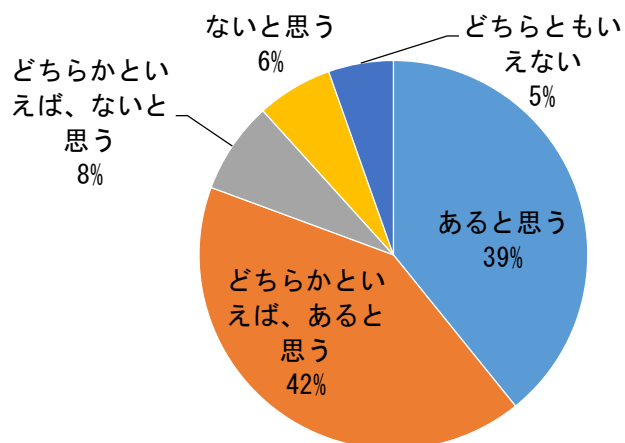
いま、あなたはどれくらい幸せですか。10点満点とすると、何点くらいになるとお思いますか。【単一回答】



8点と回答した割合が、24%と最も多く、次いで10点が21%、7点が15%、6点と9点が各12%と、高い点数をつけている回答者の割合が高い一方で、2点が1%、3点が3%、4点が4%と約1割が半分を下回る点数を付けています。

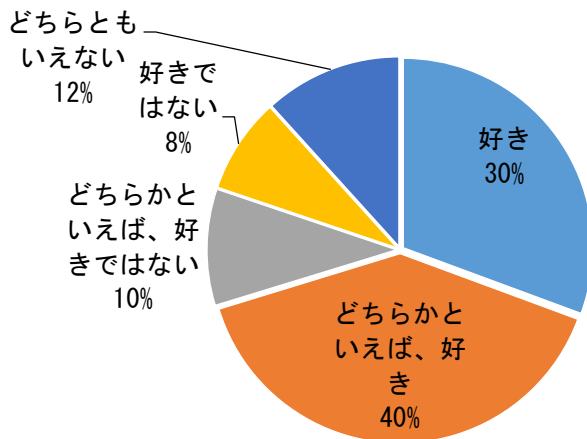
Q8 あなたのよいところについて

自分には、よいところがあると思いますか。【単一回答】【単一回答】



Q9 自分のことについて

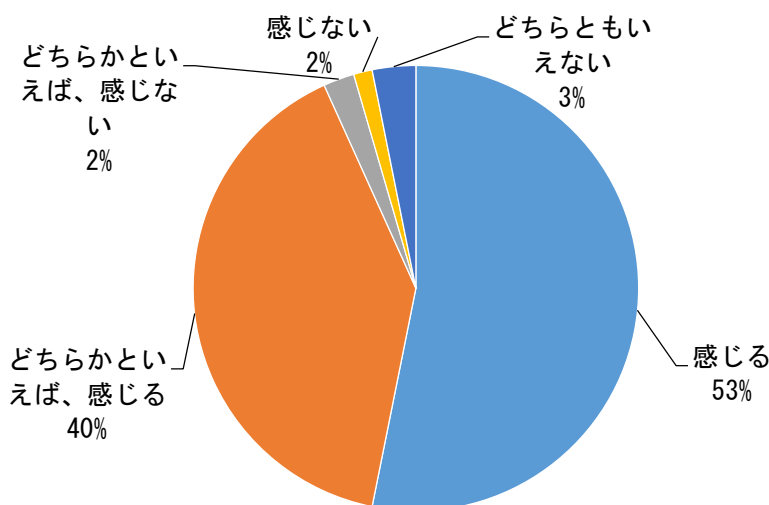
あなたは、自分のことが好きですか。【単一回答】



自分のことが好きですかという設問に対して、回答者の70%が「好き」、「どちらかといえば、好き」と回答した一方で、「好きではない」、「どちらかといえば、好きではない」と回答した割合が18%、「どちらともいえない」と回答した割合12%と約3割の回答者は自分のことが好きという自覚がないという結果となりました。

Q10 大人からの愛情について

あなたは、家庭や学校、住んでいる地いきなど、ふだん生活しているなかで、まわりの大人から「大切にされている」と感じますか。【単一回答】



まわりの大人から「大切にされている」と感じていますかという設問に対して、「感じる」、「どちらかといえば、感じる」と回答した割合が93%と、ほとんどの回答者がまわりの大人から「大切にされている」と感じています。